



板四小と板五中 心ゆたかな学びのエリア 令和7年度

学校の窓 4月号

板橋区立板橋第四小学校

HP <http://www.ita.ed.jp/edu/ita4es/>

e-mail ita4es@ita.ed.jp

新教育目標の下で

校長 堀内 祐子

令和7年度が始まりました。保護者の皆さま、お子様のご入学、ご進級おめでとうございます。

本年度は92名のかわいい1年生を迎え、18学級、総児童数508名で教育活動を開始します。教職員も14名が本校を離れ、13名が新たに着任いたしました。教職員の人事異動及び本年度の職員構成につきましては、別紙をご参照ください。

今日から、新年度のスタートです。昨年度の学校だよりでもお知らせしましたが、本年度、学校の教育目標を以下のとおり変更しました。

【令和7年度 板橋第四小学校 教育目標】

○ 自分もみんなも幸せにする子

最近「well-being（ウェルビーイング）」という言葉をよく聞くことがあります。直訳すると「幸福」「健康」という意味になります。肉体的にも精神的にも、そして社会的にも、全てが満たされた幸せな状態にあることをいいます。教育においても重視されている考え方です。

経済協力開発機構（OECD）によると「教育の目的は、個人のウェルビーイングと社会のウェルビーイングの二つを実現することである」としています。つまり、教育は、「子どもたち一人一人と社会全体が、現在から将来にわたって幸せで満ち足りた状態となるため」に行われるものでなければなりません。

では、人間は、どのようなときに幸せを感じるのでしょうか。それを明らかにするために、慶應義塾大学大学院 教授の前野 隆司氏の研究グループはアンケート調査の結果からコンピューターによる因子分析を実施し、幸福感と深い相関関係がある以下の四つの因子の存在を明らかにしました。

一つ目が、「やってみよう」因子（自己実現と成長の因子）夢や目標ややりがいをもって、「本当になりたい自分」をめざして成長していくとき、人間は幸せを感じるということです。

二つ目は、「ありがとう」因子（つながりと感謝の因子）多様な人となつながりを持ち、人を喜ばせたり、人に親切にしたり、感謝したりすることが幸せをもたらすといえます。

三つ目は、「なんとかなる」因子（前向きと楽観の因子）いつも前向きで、「自分のいいところも悪いところも受け入れる」という自己受容ができており、「どんなことがあってもなんとかなるだろう」と感じる楽観的な人は、幸せになりやすいといえます。

四つ目は、「ありのままに」因子（独立と自分らしさの因子）人目を気にせず、自分らしく生きていける人は、そうでない人と比べて幸福感を覚えやすい傾向があるといえます。

本年度、新教育目標の下で、この四つの因子を意識しながら、一人でも多くの子どもが「頑張ったらできるようになった。」「友達を喜ばせることができた。」「失敗したけれど次も頑張ろう。」「頑張った自分を誇りに思う。」と思えるような経験を積み重ねさせていきたいと思います。

*新教育目標は、本校教員 松本 彩主任教諭の書になります。ご来校の際にぜひご覧ください。

学校教育目標
自分もみんなも
幸せにする子

松本 彩主任教諭 書